

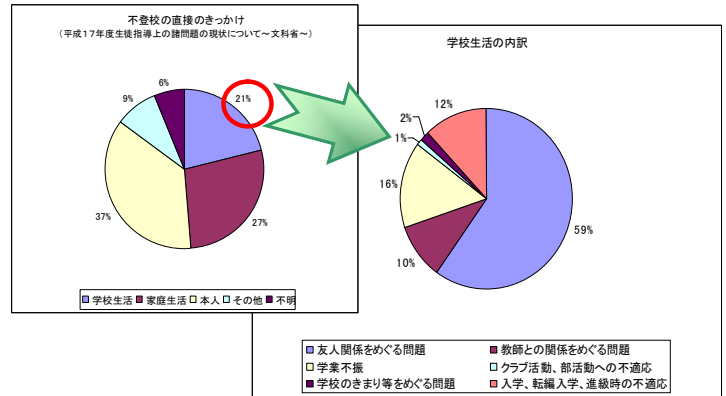
### 1 研究テーマ

学級における人間関係づくりの支援の在り方  
～「ふれ合う力」「伝え合う力」を中心にして～

### 2 はじめに

子どもの悩み事の多くは、右図の「不登校の直接のきっかけ」(文科省, 2006)を見れば分かるように、人間関係に関することである。人間関係がうまくつくれない、過度に不安や緊張感が高くなってしまい、ストレスを適切に処理できないなど、子どもの人間関係における課題は数多く存在している。

私たち教師は、子どもたちがかかえている個々の問題に対して、日々の授業改善はもちろんのこと、教育相談活動を施したり、仲間づくりの視点で様々な活動に取り組んだりしている。その中で、教師としての基本的な考え方や手法等、その在り方を中心に研究を進めていった。



平成17年度生徒指導上の諸問題の現状について  
<不登校の直接のきっかけ> (文科省, 2006より作図)

### 3 研究の目的

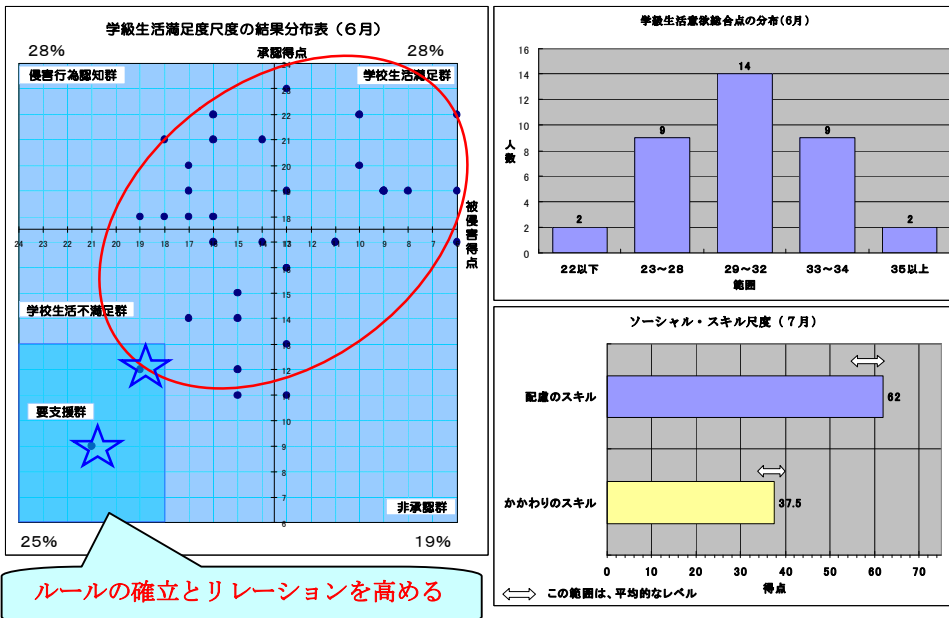
所属校の教育課題をふまえ、子どもたちに身につけさせたい「人間関係づくり」に必要な力を、「ふれ合う力」「伝え合う力」と考え、これらの力を高めていくための活動や支援の在り方を考察する。

※ふれ合う力～協力し合ったり認め合ったりする力。ソーシャル・スキル。

※伝え合う力～自分の思いを“自分のことば”で伝える力。相手の思いを受けとめ、“自分のことば”で適切に返す力。

### 4 研究の内容

#### (1) 実態把握と分析、方針 (Plan)



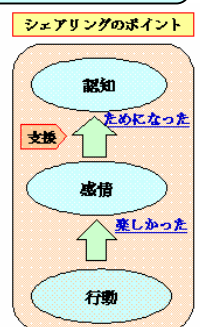
**(分析)**  
 ○プロットが全体的に拡散  
 ○侵害行為認知群の割合が高い  
 ○承認得点の低い児童が1/4  
 ○要支援児童(☆)への個別対応  
 ○配慮のスキル・かかわりのスキルともに平均的であるが、かかわりのスキルがやや低い。

**(方針)** ①～⑤は次の活動に対応  
 ①みんなで楽しめる活動  
 ②一人ひとりが認められる機会  
 ③輪が広がるような活動場面  
 ④スキル項目を高める活動と支援  
 ⑤配慮を要する個への支援

ルールの確立とリレーションを高める

#### (2) 実践 (Do)

実践にあたっては、グループアプローチ、特にSGE(構成的グループ・エンカウンター)の手法を用いた。一般的な流れは、①インストラクション、②ウォーミングアップ、③エクササイズ、④シェアリングがワンセッションになっている。特に、右図のように、シェアリングでは“行動”に伴う“感情”から「ためになった」という“認知”に高め、参加者に広めていく必要がある。



### 活動1

パス・ビーンズ・ゲーム

(支援のポイント)

“認知”に高めていくための言葉かけ



### 活動2

ほめほめ賞

(支援のポイント)

- ①多様な視点をもたせる。
- ②ポジティブフィードバック

### 活動3

なんでもバスケット

(支援のポイント)

- ①ルールの大切さを感じさせるような活動
- ②友だちの内面に向かうような言葉

### 活動5 (個への支援)

(支援のポイント)

- ①集団と個への関わりを並行して取り組む。
  - ・個人面談
  - ・承認の場
  - ・リレーションづくり

### 活動4

〇よりよいくらしについて話し合おう (もうどう犬の訓練)

(支援のポイント)

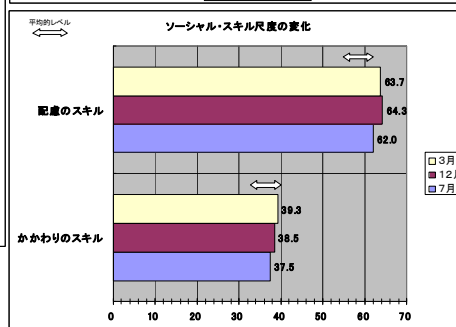
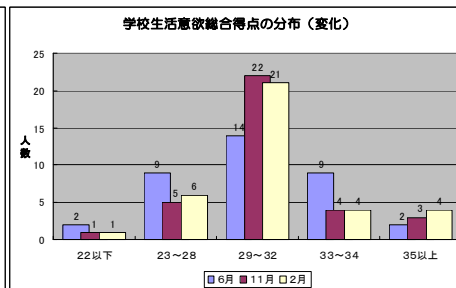
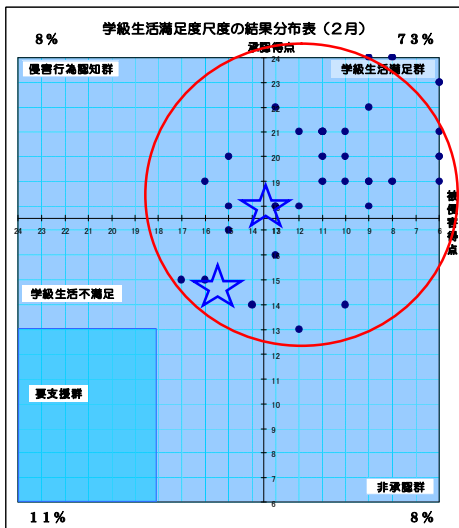
- ①基本的な「話す態度」「聞く態度」のモデル
- ②話型の活用
- ③賞賛の言葉
- 〇さいころトーキング
 

(支援のポイント)

  - ①伝え方の例示
  - ②自己開示の深めの内容
  - ③緊張感をほぐす (拍手)



## (3) 評価 (Check) と改善 (Action)



### (評価)

- 〇プロットが右上に凝集
- 〇低意欲から中意欲へ推移し、学級のまとまりが出てきている。
- 〇要支援にいた児童が、右上の場所に位置している。心の居場所を感じているようだ。
- 〇かかわりのスキルも高まりつつある。



### (改善)

- ①「ふれ合い」と「伝え合う」活動の継続
- ②認め合いの継続
- ③小集団で活動する場・時間の確保
- ④個別面談の継続
- ⑤集団と個のソーシャル・スキルを高める活動と支援
- ⑥配慮を要する個への支援

## 5 研究のまとめ

- ①調査法をもとにして、具体的な活動や支援の話し合いができた。
- ②学級での仲間づくりができ、児童の集団への所属意識が高まってきた。
- ③相手から思いを伝えてもらう嬉しさを感じ、活動への意欲が高まってきた。

## 6 今後の課題

- ①ねらいと支援に関連した評価の在り方
- ②ソーシャル・スキル項目の焦点化とその取り組み方
- ③教育課程での位置づけ

## 7 おわりに

教師の日常観察と合わせて、Q-U等の調査法を活用しながら、学級あるいは個人を、同僚と共にアセスメントしていくこと大切さを感じた。これからも、中長期的な見通しをもって、教科学習との関連を図りながら、SGEなどの活動と支援を続け、温かな人間関係につつまれた“学級”を育てていこうと思う。今後も、子どもと共に成長する教師であるよう自己研鑽に励んでいきたい。